

自由民主党
県議会議員

笹川博義

県政報告

笹川ひろよし後援会
〒373-0818 群馬県太田市小舞木町270-1
TEL.0276-46-7424 FAX.0276-49-2367
ホームページアドレス <http://www.sasagawa-hiroyoashi.com/>
自由民主党群馬県支部連合会
前橋市大字町1-13-14 TEL.027-223-1515

暮らしの安心・育てる安心、学ぶ安心に向けて
厳しい財政の中、全力で取り組みます



月日の経つのは早いもので、県議会議員としての活動も、終盤4年目に突入しました。まだまだ、大変厳しい経済であり、これに伴い税収の落ち込みもあり県の財政は厳しさをましています。その中で、私のかかげる、「暮らしの安心」「育てる安心」「学ぶ安心」に向けて、全力で取り組んで参りたいと思います。県民の皆様が目線、今後とも議会活動に専念し、安心で希望のもてる環境づくり、制度づくりを心掛けていきますので、力強いご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、皆様には、昨年も大変お世話になりました。改めて深く感謝申し上げます。有り難うございました。

平成二十一年八月三十日、衆議院自民党敗北、政権交代という大きな出来事が起こりました。私は、自民党所属の県議会議員として、自民党議席死守の至上命題のもと、頑張つて参りましたが、残念ながら、政権交代すべきとの大きな風向きを交える事が出来ませんでした。長い自民党政治について評価すべき点、反省すべき点は多々あると存じますが、少なくとも多くのみなきま方は、明るく生活不安のない未来に向けて、つましく日々を過ごしております。

自民党衆院選大敗
党再生のプロジェクト
チーム発足

そんな多くのみなさま方に来るの航海図を示す事が出来なかつた自民党では、支持の輪が広がらなかつたのは当然の帰結かもしれません。

今後は、党所属の各国会議員が大きな反省の上で立つて、どの様な意思決定をするのか、行動をするのか、注視してゆかなければと思ひます。勿論、自民党県連としては、三月までには、党再生プロジェクトチーム（私も一代表としてメンバー入りしております）から提言をまとめ、発表したいと思っております。

県議会においては、地域活性化特別委員会副委



40年振りの参考人招致実現!



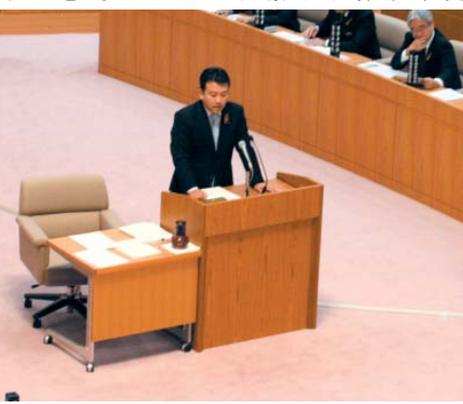
議長、産経土木常任委員会委員、八ッ場ダム対策特別委員会委員、議会改革検討委員会委員、予算特別委員会委員（平成二十年度）として、中小企業、観光振興、農業、景気対策などに努めております。

特に昨年九月定例会において、私は八ッ場ダム事業について中央の混乱、意志を確認する為には、国交省の担当者を参考人招致しなければならぬと産経土木常任委員会にて提案、採決の結果、委員会満場一致で参考人招致を決定、四十年振りの中央省庁より参考人招致が実現致しました。

議会改革委員会においては、常任委員会の皆月開催、本会議クールビズ化の二点を提案、今後とも自民党会派を中心として、議会改革を推し進めてゆくと

また、昨年の二月定例会予算特別委員会では、行政委員の報酬について取り上げ、九月定例会においても一般質問をさせて頂いた結果、行政委員報酬の見

所存であり、五月定例会にはしっかりと発表できるものと思っております。



- 県議会所属委員会**
- 地域活性化対策 特別委員会 副委員長
 - 産経土木 常任委員会 委員
 - 議会改革検討委員会 委員
 - 自由民主党群馬県支部連合会 副幹事長
 - 自民党県連 党再生プロジェクトチーム 委員

行政委員報酬の見直しを提言

月額から日額へ論戦

昨年2月の予算委員会において、まず、行政委員会の委員報酬について質問しました。というのも、大変経済状況が悪い中、県政としても経費の節減と予算の効率化が課題となっているからです。知事、特別職、管理職等の減額が明確化されましたが、行政委員の報酬について知事に質問しました。昨年神奈川県では、全行政委員の月額報酬を見直して日額に改めると発表されました。

私としても、それぞれの方が見識や経験の豊かな方が選ばれ、それぞれの職務に精通しているということは、よくわかりますが、どのような仕事をしているのか、県民の皆様もよく知られていません。県としても説明責任を果たし、月額にするか日額にするかどちらが妥当なのか検討すべきと提案しました。

その後、9月の定例議会において一般質問で取り上げさせて頂き、知事も見直しを改めて表明、今年度中にも実施される見用として4.9億円の予算計上されます。正式には今年度予算が通って実現されるものです。



通しになってきました。さらに、県執行部は細かい事業にわたるまで、見直し作業を進めていくが、その結果、議会報告されました。事業の見直し、いわゆる廃止や休止になった事業は146件で、縮小になった事業は363件と報告があり、これらの財源を新たな財源として活用されます。私は、費用対効果をもとに協議しながら、議会の意見を取り入れながら見直していくよう要望致しました。

救急医療の整備促進 新年度予算に計上 小児集中治療など増床

子育て支援と乳幼児の医療に関しては、子どもを安心して育てていく環境づくりを課題として取り組み、一般質問でそれに関する質問をしてきました。生命に関して病院・医療など

子育て支援と乳幼児の医療に関しては、子どもを安心して育てていく環境づくりを課題として取り組み、一般質問でそれに関する質問をしてきました。生命に関して病院・医療など



を巡り深刻な問題があります。中でも救急医療の整備促進を訴えました。例えば救急車両が運ぶ患者の搬送先を消防本部から医療機関に問い合わせをするのですが、医師不足等を理由に断られるケースもあり、一刻を争うことなので、きちんとしたセンターの設置を要望しました。

子どもを育てるなら 群馬県と呼ばれるよう 奨学金制度の充実を

さらに、県民の知る権利を守るための広報についても、そのあり方についても質問しました。



また、厳しい経済情勢の中、給食費や修学旅行費、副教材費の未納についても質問しました。これも、家庭にとっては、相当の負担になっています。例えば、高校生の場合年間35万円ほど。中学生3年生で13万円程度です。とくに、給食費の未納問題については大きな課題となっており、給食費の無料化に踏み切った自治体は全国で2、3あります。また、中学卒業までの医療費の無料化についても以前に一般質問をしたことがあります。私としては、財力がある地方自治体とそうでない自治体との格差が起きてはならない、と思いたからであります。大澤知事の英断で昨年の10月より卒業までの医療費の無料化が実現

奨学金制度についても充実した運用を要望。申請期間についても臨機応変に対応してほしい。景気の影響で学ぶ機会がなくなるような社会にしないほしい、と要望しました。そして「子どもを育てるなら群馬県」と誇りのもてるような施策を講じてもらいたいと思っております。



群馬県の高校進学率は97.9%になっています。国は公立高校の授業料の無償化の方向に進んでいますが、県の対応を質問し、これに関連して公立高校と経営基盤の弱い私立高校が共存共栄できるようなシステムを要望しました。とくに、少子化の問題もありますので減少する生徒数に苦慮